



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2014年(平成26年)11月25日号 No.1645

目次

■ 2014年1～9月のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 統計速報	6
2014年1～10月のロシアのブランド別乗用車販売台数／6	
■ 『ロシアNIS調査月報』2014年12月号のご紹介	7
■ モスクワほっとニュース	8
喫煙者天国はいずこへ・・・／8	
■ トピックス	9
JICAがウズベキスタン向け円借款／9	

2014年1～9月のロシア経済と鉱工業生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局より2014年1～9月のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介する。なお、すでに国家統計局より、1～10月の鉱工業生産が発表されているため、図表4のロシア主要鉱工業製品生産動向では2014年1～10月の数値を用いている点にご注意いただきたい。

2014年1～9月の経済成長率は前年同期比で0.5%の増加に留まった。そのうち、農業生産(7.7%増)は2013年と比べ増加したが、対照的に、鉱工業生産(前年同期比1.5%増)や実質可処分所得(0.7%増)、商品小売販売高(2.3%増)、固定資本投資(2.5%減)といった指標では2013年とほぼ同じ水準か、もしくは、一層悪化が進んだ。ロシア連邦経済発展省は続く経済の不振を受け、2014年のGDPの見通しを0.5%程度と下方修正しており、今後もこの傾向は続くと思われる。

2014年1～9月の鉱工業生産を分野別にみると製造業が前年同期比で2.3%増加しており、もっとも高い成長率であった。製造業の中でも、化学製品分野の伸びが大きく、ゴム・プラスチック製品(5.0%増)やコークス、石油製品(5.9%増)などが好調であった。また、続く自動車市場の低迷の影響で、乗用車(8.2%減、1～10月の数値)、トラック(24.2%減、同)などは生産が軒並み減少したが、鉄道貨車の生産が大きく伸びているため(24.6%増、同)、輸送機器全体では増加している。